

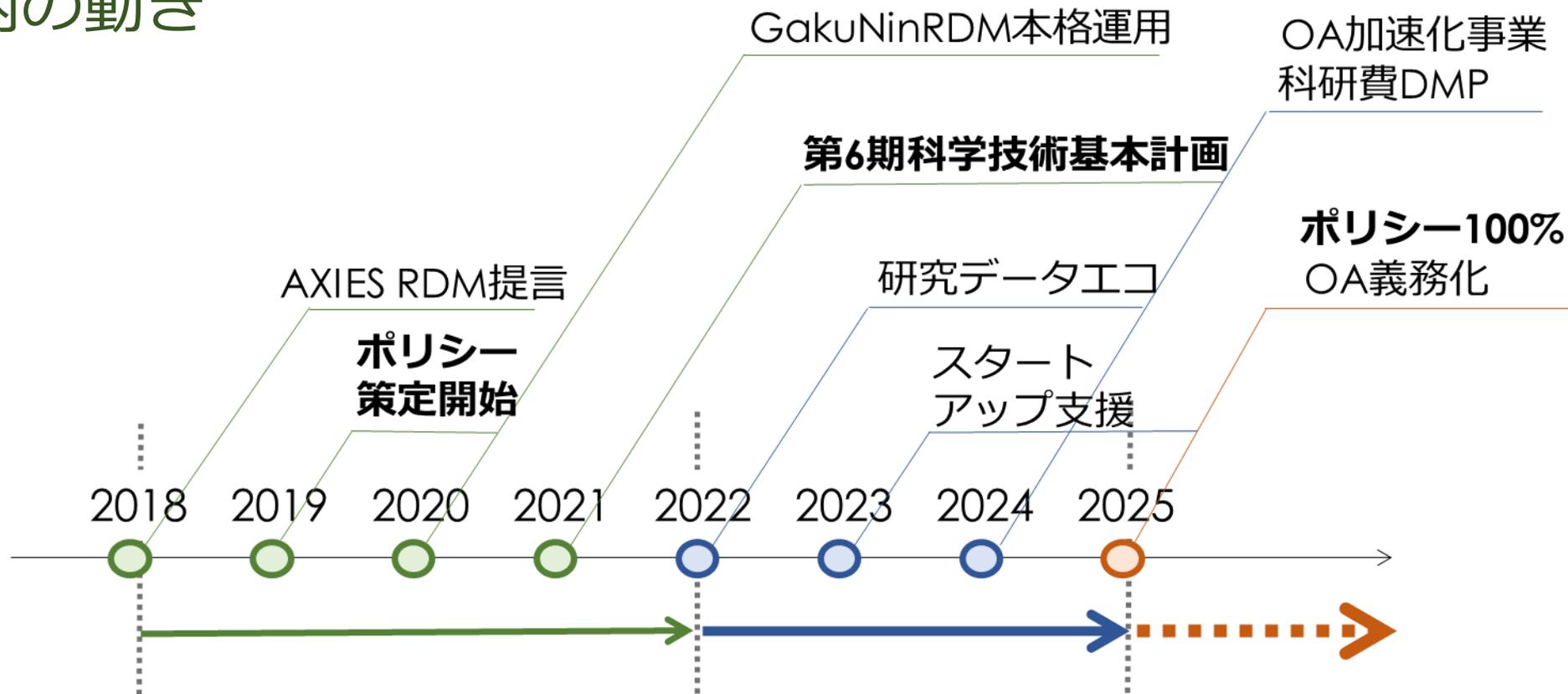
# 名古屋大学における 学術データ取扱いガイドライン の策定と展開

松原 茂樹

(名古屋大学情報基盤センター)

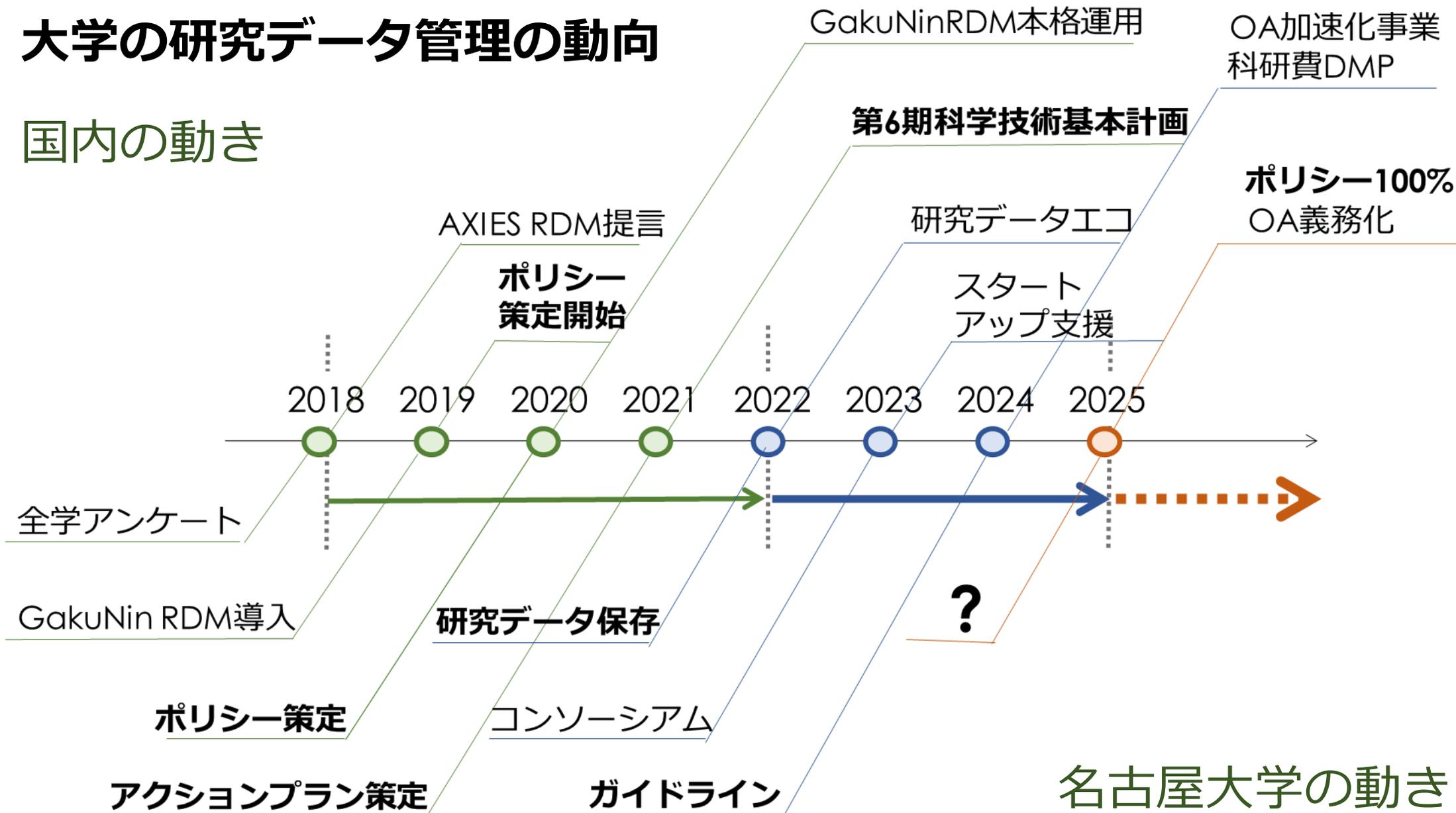
# 大学の研究データ管理の動向

## 国内の動き



# 大学の研究データ管理の動向

## 国内の動き



## 名古屋大学の動き

# データポリシーの策定

## 名古屋大学 学術データポリシー [2020.10承認]

<http://www.icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/>

目的

定義

管理主体

構成員責務

大学責務

管理の  
主体

学術データの管理の方法は  
収集・生成した者が主体的に決定できる

構成員  
の責務

大学構成員は  
収集・生成した学術データを適切に扱う

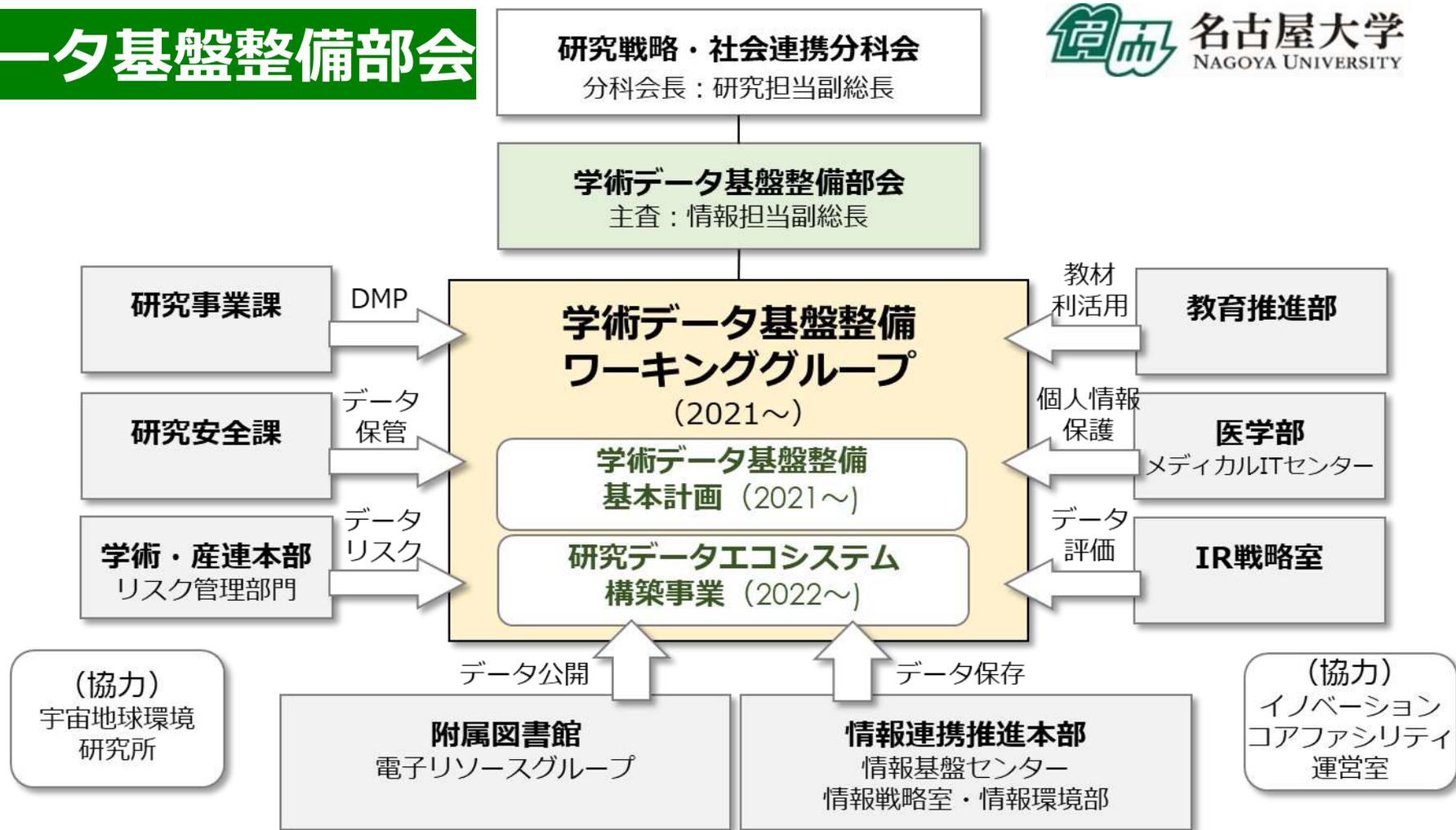
大学の  
責務

名古屋大学は  
構成員による学術データの管理を支援する

- 研究データの取扱いの**基本的**な考え方
- (研究公正ではなく)**オープンサイエンス推進**が中心

# 推進体制の整備

## 学術データ基盤整備部会



学内の**実務者メンバー**からなる横断的な時限組織を整備 (2021~2026)

# 大学のアクションプランの策定

## 学術データ基盤整備基本計画 [2021～]

ポリシー	施策項目	ビジョン	内容 2021-2023
学術データの管理・公開・利活用の支援環境を提供	1. データプラットフォーム	学術データを大学が提供するデータプラットフォーム上で管理できる	4 施策 【情報/医/図書】
	2. データ管理計画	大学による支援のもと、研究助成機関の求めに沿ったデータ管理計画を作成できる	2 施策 【研究】
	3. データリポジトリ	学術データを、本学が提供するデータ公開基盤において公開できる	3 施策 【図書】
	4. メタデータ作成	公開する学術データに、国際的な相互運用性を備えたメタデータを付加できる	4 施策 【図書/情報】
	5. 利活用促進	学術データを、共同研究や産学連携、アウトリーチ、授業等で利活用できる	5 施策 【産連/図書/教育/情報】
	6. 契約、法務	学術データを、利用者との契約のもとで利活用に供することができる	1 施策 【WG】
	7. 奨励・実績評価	大学における学術データの管理、公開、利活用の取り組みを評価できる	3 施策 【IR/図書】
	8. 規程・実施要項	学術データの学内規程・実施要項が策定され、そのもとでデータ管理・公開・利活用を推進する	3 施策 【WG/教育/医】
	9. 啓発	大学構成員は、学術データを適切に管理し、可能な限りそれを公開し、利活用に供する	3 施策 【WG/図書】

# 研究データの長期保存

- 研究データ保存の学内規程

研究資料等（試料及び標本を除く。）の保存期間は、原則として、当該論文等の発表後10年間とする。

○東海国立大学機構における研究上の不正行為に関する取扱規程（第6条）

## 研究不正防止策

- 研究データ10年保存の**実効性**
  - 査読付論文の責任著者（≒PI）は大学が提供する「**研究データ保管システム**」に研究資料を保存
  - 論文の根拠データ（及びその処理手順）が保存の対象
  - 著者の大学離籍後も10年間保存



名古屋大学

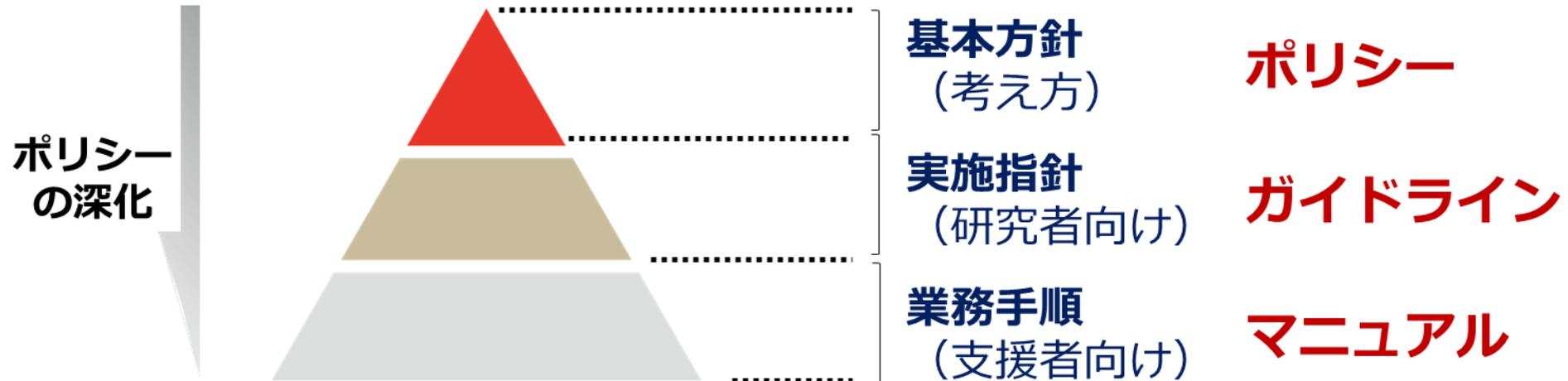
学術研究・産学官連携推進本部  
Academic Research & Industry-Academia-Go

> 研究データ保管システムの利  
用について（学内専用） 

研究データ保管システムの利用方法につ  
いて、ご案内します。

# 研究データポリシーの深化

- 研究データガバナンス強化に向けた  
ルール・ガイドライン整備の戦略



1. 名古屋大学学術データポリシーは「基本的な考え方」を提示
2. ポリシーに基づき、“**研究データ取扱いガイドライン**”を策定
3. 研究者によるガイドライン遂行を支援する業務手順書を整備

# 研究データの取扱い指針の策定

## 研究データの管理・公開・利活用ガイドライン [2025.3承認]

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/html/research-data-guidelines-open/>

- **研究データ管理責任者**（≒PI）の役割と責任
- 研究サイクル（**準備**→**実施**→**整理**）に沿った項目設定

### 1. ガイドラインの位置付けと適用範囲

### 2. 研究の準備

- データ管理責任者の役割 /データ管理計画 DMP/

### 3. 研究の実施

- 研究データの保管 /ストレージ, 個人情報, データ倫理, 共同研究/
- 研究データの共有 /データセキュリティ, 利益相反マネジメント/

### 4. 研究成果の整理

- 研究データの保存 /研究公正, データ10年保存/
- 研究データの公開 /機関リポジトリ, データ公開基盤/
- 研究データの利活用 /知的財産, 教員データベース/

### 5. 参考情報

# 研究データの取扱い指針の策定

## 研究データの管理・公開・利活用ガイドライン [2025.3承認]

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/html/research-data-guidelines-open/>

- 研究データ管理責任者（≒PI）の役割と責任
- 研究サイクル（**準備**→**実施**→**整理**）に沿った項目設定

1. ガイドラインの概要
2. 研究の**準備**
  - データ管理計画の作成
3. 研究の**実施**
  - 研究データの収集
  - 研究データの保存
4. 研究**成果の整理**
  - 研究データの公開
  - 研究データの利活用
  - 研究データの廃棄
5. 参考情報

## 2. 研究の準備

### 2.1 研究データ管理責任者の役割

研究データ管理責任者とは、研究グループ内の大学構成員のうち、研究データの管理、公開、利活用について統括的な権限と責任を有する者をいう。研究グループの代表者であるPrincipal Investigator (PI) が想定される。研究グループに必ず研究データ管理責任者を配置すること。研究データ管理責任者が本学を離籍する場合には、研究データを管理する者が不在にならないように離籍前に対策を講じること。

### 2.2 データ管理計画の作成

データ管理計画 (Data Management Plan (以下、「DMP」という。)) とは、研究データの保管、共有、保存等の管理計画をいう。研究データ管理責任者は、DMPを作成し、研究グループ内で保有し、必要に応じて適宜、更新すること。

# データポリシー策定の次の一手：生成AI の回答は？

## チャットRDM [2024.12～]

<https://slp.itc.nagoya-u.ac.jp/e-science>



### チャットRDM

大学で研究データ管理を推進します。データポリシーの策定は完了しています。次に学内で研究データ管理を進めるために、どんな行動をするのがよいでしょうか。

大学で研究データ管理を進めるためには、以下の行動が推奨されます。

- \*\*関係者の意識向上\*\***: 教職員や学生に対して、研究データ管理の重要性を周知するためのワークショップやセミナーを実施します。
- \*\*具体的なガイドラインの提供\*\***: 研究データの管理や保存に関する具体的なガイドラインや手順書を作成し、学内に配布します。
- \*\*支援体制の構築\*\***: 研究データ管理を支援する専門チームを設け、相談窓口を設置します。これにより、研究者が必要な情報やサポートを受けやすくなります。
- \*\*データ管理手法のトレーニング\*\***: 研究者がデータを効果的に管理できるよう、データ管理手法やツールに関するトレーニングを提供します。
- \*\*フィードバックの収集\*\***: 研究者からのフィードバックを定期的に収集し、ポリシーや支援体制の改善に役立てます。

これらの活動を通じて、学内での研究データ管理が一層浸透することを目指します。

質問を入力

1. FD, セミナー
2. ガイドライン, 手順書
3. 支援体制
4. 教材, 人材育成
5. フィードバック収集

# (まとめ) データポリシー策定の次の一手：名古屋大学の事例

## これまでの取り組み [2020～2024]

- **学内体制**の整備 (2020～)
- **大学アクションプラン**の作成 (2021～)
- 実効性のある研究データ**10年保存** (2022～)
- 東海地域における大学コンソーシアム (2023～)
- 研究者向け**ガイドライン**の策定 (2024～)

## これから：策定した「ガイドライン」を**起点**に推進する

- RDM教材, FAQの整備
- 支援業務の手順書の作成
- データの保存と公開の連携
- 大学DMPの設計と運用